

## 国内最大の大震災

### 困難乗り越え、命と平和な暮らしを守るために！

東北関東大地震で犠牲者になられた方、さまざまな被害を受けられた方々に、哀悼とお見舞いをいたします。3月11日の大地震から、すでに2週間経過しましたが、情報が明らかになるにつれ、「戦後未曾有」と言う大きな災害であったことが明らかになってきました。

#### 鹿行地域の被害甚大

鹿行地域では、特に神栖市、潮来市、鹿嶋市の被害が大きく、液状化現象で道が寸断され、家屋が傾き、電柱が軒並み傾くなど大きな被害に見舞われました。また上下水道の被害も大きく、潮来市や神栖市では、断水が解消されていない地域も多く残っています。屋根瓦の落ちた家も多く、潮来市のある店では補修の注文が600軒以上来ています。

地震発生から数日間、電話等は一切つながらず、ガソリンの手配もできないため、移動もままならず、互いに安否が心配されました。連絡が取り合えるようになってみて、鹿行地域の平和委員会の会員には、人身被害等がなかったことが分かりました。

#### 原発事故は重大

さて、大地震に伴う原発事故は、地震に勝るとも劣らない重大な問題です。福島原発はチェルノブイリ原発事故に匹敵する炉心



事務局長・木村 泉

溶解を含む重大なトラブルが、4基の原発に発生しました。茨城を含む関東で、野菜や水道水までも放射性物質汚染にさらされました。原発のトラブルは現在も予断を許さない状況が続いています。地域によっては土壌の汚染も発生しており、対応の見通しも立っていない有様です。

この未曾有の地震と原発の災害復興にあたって、国も県も総力をあげ、生活再建と地域社会の再建に取り組むべきです。復興に際しては、消費税の税率アップなどは問題外です。そうではなく、法人税減税の取り止めや財界の内部留保の活用を図ることが急務です。特に原発に関しては、「原発は本来安全だ」と言うような安全に神話からの転換が必要です。

困難が山積している状況ではありますが、命と平和な暮らしを守るため、力を合わせてがんばりましょう。



【大地震後の潮来市内の状況】



## みんな頑張っています！



会員のみなさんには幸いいたところは人的被害ありません。県内全域で多くの家の瓦や壁が崩れ被害が広がっています。一部で家が傾いたりした所もあります。しかし、多くの会員は自分の被害もさることながら、地域の復旧活動や市町村役場の災害対策活動でみんな精一杯頑張っています。

◆ 特にひどかった潮来市では、風間・佐藤・小沼・鈴木・志村・柏崎さんたちが他の職員と一緒に地域に入って活躍しています。

◆ ゆうき平和委員会やゆうき9条の会では、義援金を集めたいが、県でもやってもらいたい。市役所の中央公民館では避難場所に指定されているため猫の手も借りたいとの事。

◆ 石岡の植田代表理事はカンパ2万5千円と毛布13枚送ったと報告がありました。また、家屋の損傷について自治体と話し合せて「助成金」を支給させるようにしたい。

◆ 農民連では地震発生翌日から、村田書記長中心に各農民組合が協力しおにぎり・水・野菜その他日用品を大洗・東海・日立・北茨城などに届け、喜びと感謝のお礼を浸っています。18日には県西農民センターと関東ブロックで10トン、20日には常陸野の2トンの救援物資が被災地に届けられました。

◆ 議員さんや労働組合・民主団体のみなさんも復旧対策にみんな頑張っています。1日も早くもとの生活に戻れるよう各会員のみなさんは相談し合せて奮闘しましょう。

## 平和会館、震度6に耐える

3月11日午後2時46分、県平和委員会事務所には、伊達・小林両名が詰めていました。古い平和会館全館が崩れるのではと思えるほどの長い揺れ。事務所内の本棚から資料・書籍類が床に散乱、廊下の本棚はひしゃげて紙類が床いっばいに散らばりました。パソコンを駄目にしてはと両手で抱え込んで付むだけでした。

水戸市見川地区は、電気の復活が比較的早く、断水も2日後には解消されました。

多くの会員の皆さまから老朽化している平和会館を心配する声がありましたが、県平和委員会は無事に業務を再開しています。

震災についての情報、ご意見等をお寄せ下さい。



歓迎！新入会員のみなさんです。  
宜しくお願ひします。

佐藤 稔 さん（取手市）  
山口 住江 さん（稲敷市）  
高久 清 さん（つくば市）  
武田 勉 さん（石岡町）  
植田 共栄 さん（小見玉市）  
丸町 孝子 さん（守谷市）  
大枝 恒雄 さん（石岡市）  
田口 栄 さん（石岡市）

各平和の会（平和委員会）のみなさん一人ひとりの力で、  
月5名の仲間づくりを実現いたしましょう。

### 平和新聞

2011年3月25日号(金曜日)  
1952号（毎月5,15,25日発行）

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 日本平和委員会  
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝 1-4-9 平和会館  
(郵送料月額120円) 電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

### 平和かわら版

平和新聞茨城版 No. 590  
2011.3/25

発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川 5-127-281  
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

## 原発震災

チェルノブイリ原発事故に匹敵する大惨事につながる可能性の出た福島第一原発。今回の事故について各界の人が、新聞紙上・週間紙等で発言しています。

### 地震学者は「原発震災」と呼んで問題提起をしてきた

(広瀬 隆さん・作家)

大地震が発生して被害が拡大しているとき、原子炉の事故による放射能災害が重なり合った最悪のケースを想定して、地震学者の石橋克彦さんは「原発震災」と呼んで、問題提起を続けてきました。しかし、わが国では具体的な対策は、手つかずのままでした。「想定外」ではなく、大地震と原発事故が同時に起こることは十分に考えられたのに、想定してこなかったのです。

津波についても、日本の沿岸地震では、ほんの100年ほど前に明治三陸地震津波が起こっています。このとき、岩手県沿岸の津波は38mを記録しています。東京電力も政府も「想定外」なんて言葉を安易に使ってほしくない。

### 国民に全体像説明を

(後藤 政志さん・元東芝・原子力設計技術者)

政府の発表は、国民を安心させたいためか、すべてが断片的で、全体がどうなっているかという説明になっていません。

福島第1原発の全体系は安定していません。ほとんどが壊れている中で、一部がかるうじて生き残っていると見るのが正しいのであって、「安全、安全」というのは詭弁です。政府もマスコミも、全体の中で今どうなっているかという正しい情報を伝えてほしいと思います。

今まで原発の設計では、地震や津波の危険性について専門家の指摘があったにもかかわらず、すべて「そんなことはない」と押し切られてきたのです。そのことは検証されなければなりません。2007年の新潟中越沖地震では、東京電力柏崎刈羽原発が設計上の2倍、3倍も揺れたのに、その時は「壊れなかったからよかった」などと済ませました。3倍もの力が加わったというのは、設計の破綻なのです。危険があるなら、その危険に耐えられるように設計するのが、構造の常識です。にもかかわらず、原発では、地震や津波に関してそうやってこなかったことに基づく疑問を持ってきました。私は、今までの設計の条件が決定的に間違っていたと考えます。



【写真：3月23日福島第一原発の遠景】

### 最高の専門家集めよ

(安斎育郎さん・立命館大学平和ミュージアム名誉館長)

現地の情報は、東電や原子力安全・保安院の発表で知るしかないのですが、当事者にウソをつかれたらおしまいです。事故の際には、隠すな・ウソをつくな・過小評価するな、の3原則が重要ですが、今回はどうでしょうか。当事者は希望的観測と客観的現実の区別がついていないのではないのでしょうか。どうか収まるだろうという願望で行動するのは危険です

事故現場のスタッフは、身体的にも精神的にも極限状態に近いでしょう。電力会社の枠組みを超えた取り組み、専門家によるバックアップ体制が必要です。わが国の最高の専門家を集めて対応していくべきです。

### 時機失わない対処を

(早川 篤雄さん・原発の安全性を求める福島県連絡会代表委員)

今回の大地震による倒壊と津波の被害自体が大変なものです。が、原発周辺の住民は二重の、しかも将来の展望が見えない不安を抱えています。行政はこの不安を取り除くため、避難住民の仮設住宅や移転先を準備し、医療体制、避難所での放射能除染体制を整えることが求められます。

私たちは1960年代の終わりから原発の危険性を具体的に訴えてきました。それが今回すべて現実ものとなってしまい、悔しさ、怒り、恨みでいっぱいです。

住民にはまったく落ち度はありません。この期に及んで政府が「想定外の地震だった」などと今から逃げ道をつくっているのは許せません。

## 『代表理事・常任理事はこんな人』

第18回目は、代表理事・伊達 郷右衛門さんです。



### 思い出2題

その1. 東京から初午まつりに参加

東京在住の時分、1968年ないし69年だったと思う。新宿西口安田生命ビル前から東京平和委員会・杉並平和委員会・弁護団・労働組合その他の方々に混じって百里に向かった。これが百里基地との初めての出会いであった。いまでも毎年新宿西口から、百里初午まつり参加をいただいています。

東京や全国の仲間の連帯につくづく感謝。百里平和農園・一坪運動・東京高裁公判傍聴などなど、半世紀以上にわたる百里基地闘争のひとつの特徴は全国の仲間の連帯の強さにあると思う。

その2. 日本平和委員会とのかかわり

1974年1月、茨城に移って2~3年後の事だと記憶する。その時、全日農茨城県連(事務所は水戸)でオルグ活動していた。茨城の平和委員会は実態はなく、20名足らずの平和新聞の読者がいたにすぎなかった。事務所もないので平和新聞は農民組合に東京から送られてきていた。それを小坪信義さんというお年寄りが取りに来て郵送したり配布していた。35~6歳の小生。「小坪さん、俺がやってやるよ」とお手伝いしたのが平和委員会とはじめてのかかわりであった。配布だけでなく集金、そして平和学習などに繋がっていき再建の1歩をみんなで歩みはじめたのです。

### 静岡県と中部電力への

### 浜岡原発を止める申入れ

静岡県の市民グループ「浜岡原発を考える静岡ネットワーク」は、3月14日に静岡県へ、18日に中部電力へ、『予想される東海地震の震源域で運転されている浜岡原子力発電所の運転の停止を願う要望書』を提出しました。

このなかで、『福島第1、第2原発が大変危険な状況です。東北地方太平洋沖地震によって、原発の基本である「止める・冷やす、閉じ込める」が危うくなり、緊急炉心冷却システムが働かず、原子炉の燃料棒は露出し最悪の事態も予想されます。』などとしています。